

海老浜のマルバシャリンバイ自生地



大きく成長したマルバシャリンバイ

マルバシャリンバイは日本の四国から九州、韓国、台湾までの暖地の海岸近くに自生しています。5月頃から白い小さな花をつけ、黒紫色の山ブドウのような実を沢山つけます。

鹿島区は群落をつくり自生する北限で、浜通り地方が暖地系と北方系の植物の移行地帯であることを示す貴重な植物です。



防波堤に沿って自生するマルバシャリンバイ

南相馬市鹿島区にある海老浜は、2011年の大津波の被害を被った地区です。

マルバシャリンバイも根こそぎ流されてしまい、自生地も失われたかに思われていましたが、時間の経過と共に、若芽が芽吹き、時間をかけて樹高も高くなってきています。

大自然の力強さを感じられる文化財となっています。



秋のマルバシャリンバイ

